

会 議 要 旨

会 議 の 名 称	令和 8 年度第 1 回川越市地域包括支援センター等運営協議会
開 催 日 時	令和 8 年 7 月 8 日（水） 1 4 時 0 0 分 開 会 ・ 1 5 時 4 0 分 閉 会
開 催 場 所	川越市民サービスステーション会議室 (川越市脇田本町 8－1 U-PLACE 3 階)
議 長 氏 名	廣瀬哲也会長
出席委員氏名	大塚副会長、筒井委員、岡持委員、高橋委員、酒井委員、 佐藤委員、近内委員、水村委員、西内委員、井上委員、粕谷委員、 松田委員（1 2 名）
欠席委員氏名	柴委員、保科委員（2 名）
事 務 局 職 員 職 氏 名	介護保険課 飯田課長、新井副課長、辻本副主幹 地域包括ケア推進課 内藤課長、富田副主幹、松下主査、 三ツ目主査 福祉相談センター 高橋所長
オブザーバー	川越市地域包括支援センターきた 安原氏 〃 中央ひがし 新井氏 〃 中央にし 五位野氏 〃 ひがし 渡邊氏 〃 たかしな 佐治氏 〃 みなみ 佐々木氏 〃 だいとう 荒木氏 〃 かすみ 山岸氏 〃 にし 村田氏 （9 名）
配 布 資 料	1 次第 2 資料 1 令和 7 年度第 3 回川越市地域包括支援センター等 運営協議会会議要旨 3 資料 2 令和 7 年度地域包括支援センター事業実績 4 資料 3 地域包括支援センター別令和 7 年度事業実績・令和 8 年度事業計画 5 資料 4 令和 7 年度認知症地域支援推進員の活動実績 6 資料 5 令和 7 年度福祉相談センター業務実績 7 資料 6 令和 8 年度川越市地域包括支援センター等運営協 議会のスケジュールについて（予定） 8 参考資料 1 令和 7 年度川越市地域包括支援センター等運営協 議会追加資料

	(当日配布資料)
9	委員名簿及び事務局名簿
10	参考資料2
11	【冊子】認知症になっても～安心して暮らし続けるための道 しるべ～
12	【チラシ】第18回リレー・フォー・ライフ・ジャパン20 26川越
13	【チラシ】認知症介護の電話相談

議 事 の 経 過	
	1 開 会 2 あいさつ 3 職員紹介 ・委員の解嘱及び委嘱について ・傍聴人の確認＜傍聴人なし＞ 4 報 告 (1) 令和7年度第3回川越市地域包括支援センター等運営協議会について 事務局 【資料1】及び【令和8年度川越市地域包括支援センター運営方針】、【参考資料1】を基に事務局より報告。 会長 意見・質疑はあるか。 委員 (意見・質疑なし) (2) 令和7年度地域包括支援センター事業実績について 事務局 【資料2】を基に事務局より説明。 会長 意見・質疑はあるか。 委員 地域包括支援センター（以下包括）にリハビリテーション専門職が配置されているのは全国的にも珍しい。来年度の介護保険法の改正に向けては包括の職員にリハビリテーション専門職の配置について検討がなされているので、川越市での取組がいろいろなところでモデルになってくると思っている。 会長 他に意見・質疑はあるか。 委員 (意見・質疑なし) (3) 地域包括支援センター別令和7年度事業実績・令和8年度事業計画について 事務局 【資料3】を基に事務局より説明。 会長 2か所の包括から報告をお願いしたい。

オブザーバー	【参考資料 2】を基に包括ひがしより説明。 令和 7 年度事業実績報告について 包括ひがしは川越市の東側、芳野、古谷、南古谷地区を担当している。包括 9 ヶ所の中で一番広い地区を担当している。 移動手段は主に車。芳野地区の特徴は住民同士の繋がりが強い。古谷地区の特徴はグリーンパークという大きい団地があり、そこからの相談が、古谷地区の 3 分の 1 を占めている。南古谷地区は新しい住宅も増えており、高齢化率は低い、1 人暮らしの高齢者も多い地区。事業の取組としては、担当圏域ケア会議「ひがしケアネット」を年に 3 回実施。令和 5 年度より高齢者の居場所マップについて検討。2 年かけて作成し、令和 7 年度に完成した。家族介護交流会を毎月実施。虐待をしてしまった家族の参加があり思いの吐き出しを行い、虐待事案は終結となった。また体力測定会で実施した基本チェックリストの結果、口腔機能と聞こえに課題のある高齢者が多いことがわかった。特に芳野地区が高く、口腔機能の項目に 37.6%の方が該当。これらのことから、1 人暮らし高齢者の方に対するアプローチを進めていく必要がある。 令和 8 年度の事業計画について 総合相談のきっかけが、骨折、体が痛いという理由から動けない、動きにくくなったという方が多いことから、介護予防を積極的に推進していく。また口腔や、聞こえに課題のある高齢者が多いということが、体力測定会の基本チェックリストから分かったので、自主グループで口腔機能の出前講座を活用するなどの取組を実施したい。また包括に理学療法士もいるので、多職種連携を強化し、アセスメントを実施し、関係機関と連携を図り相談者に合った支援を行っていく。また自治会、民生委員、地区社会福祉協議会等と連携を強化し、高齢者の居場所マップなどを活用し、地域での見守り体制の充実を図っていきたい。
オブザーバー	【参考資料 2】を基に包括たかしなより説明。 令和 7 年の事業実績報告について 昨年度に力を入れた事業としては、担当圏域ケア会議「たかしなネットワーク」の開催。地域包括ケア推進課や健康づくり支援課と連携しながら、地域診断を実施した。独居世帯の多さ、孤立、貧困、認知症、健康意識の低さなどの課題があることが明らかになった。このことから、「みんなで繋がり元気になろう～こんな通いの場があるといいな」をテーマに合計 3 回会議を行った。参加者からは、地域活動の場や中心人物の共有が進み、次年度に繋がる意見が多く寄せられた。オレンジカフェの新規立ち上げや自主グループの設立支援を行い、介護予防サポーターのボランティア参加を促進した。総合相談では、新規相談が月 100 件前後と、令和 6 年度と同様の状況。認知症関連のご近所トラブルやごみ屋敷問題など深刻な事例が増加傾向にある。虐待件数は、新規が年間 23 件と多いため職員の対応力

	向上が課題。 令和8年度事業計画 独居高齢者世帯の見守り・支援を重点課題とし、地域・近所の繋がりを強化し、お互いに見守られる地域づくりを目指す。昨年度と同様、オレンジカフェの継続開催、自主グループの立ち上げ、今年度から包括たかしなで主催の「ときも健幸スタジオ」を実施していく。ボランティアと協働しながら、少ない職員数でも対応できる体制づくりを考えていく。また、ときも健幸スタジオでは、事業紹介や地域活動グループの紹介などを行い、活動の場を広げていくことを目指す。また地域圏域ケア会議「たかしなネットワーク」では、地域のお出かけマップ作りを計画し、家から出ない人や、交流を避ける人達が、一歩踏み出せるような内容を盛り込んだマップ作りを考えている。民生委員と事前打ち合わせを行い、今年度はブロックごとに1回ずつ、合計5回開催する方向で進めている。市や社会福祉協議会、介護保険サービス事業所、民生委員、自治会などと協力しながら、見守り体制の強化を図るとともに、介護保険サービスに頼らない、活動の場を増やし、介護予防に努め、元気なたかしなを目指す。
会長	意見・質疑はあるか。
委員	包括ひがしについて総合相談のきっかけが骨折、身体が痛いという理由のため、介護予防を積極的に推進していくとのことだが、具体的にどんなことを実施していく予定か。
オブザーバー	自主グループが圏域に38か所程度ある。市が出前講座として年2回講座を実施出来るのでそちらを活用。また、昨年度から介護予防に資する取組が行えるようになったので、自治会などの小さい単位で理学療法士より講話を行ったり、その地区より要望のある話をしていきたいと考えている。
委員	包括みなみや包括だいとうで、高齢虐待の相談件数が増えているが、フォローアップやアドバイスはどのように実施しているのか。
オブザーバー	福祉相談センターと連携しながら支援している。例えば自宅での見守りで終息してしまうこともあるが、そういった時には定期訪問を継続して状況把握に努めている。状況については福祉相談センターと情報を共有している。また、ケアマネジャーとも連携して状況確認している。強く深く関わっていく方もいるが、そうでない場合は距離を置いて状況確認を行っている。
オブザーバー	障害者分野、保健所、ケアマネジャー、医療機関などの関係機関と連携して対象者にあつたサポート方法を検討し対応している。所内にも多職種が

	いるので、社会福祉士が主となって対応方法について議論して対応している。
委員	川越市では、虐待対応専門職チームの派遣という形で年に3回、社会福祉士会及び弁護士会が対応している。包括のセンター長をはじめ、実際のケースを交えながらプロセスを検討している。虐待に対するプロセスで大事なことは一人で抱えて厳しい状況になってしまうこと。包括の方もよく理解しておりチームで対応している。市に虐待の判断をしてもらうそういったプロセスが川越市はきちんと出来ている。
事務局	虐待の通報またはその疑いということで相談があると、福祉相談センター職員と包括担当者とともに、対象者の安否確認、本人、家族に事実確認を行い、その把握した内容に基づいて、福祉相談センターと包括担当者でコアメンバー会議を実施。虐待有無の判断、虐待があるということであれば、解消に向けた対応方針を協議。それを支援者間で共有し、解消に向けた取組を実施。発見が多いのは、ケアマネジャーの方。医療機関からの相談もある。
委員	虐待の対応は複数の職員で対応すると思うが、近年ケアマネジャーが刺殺される事件が起きた。以前は医師が射殺された。訪問時、気を付けるべき事柄について、新たな取組や話し合いはあるか。
事務局	先日川口市でケアマネジャーが刺殺された事件を受けて、国から通知が発出された。それを元に埼玉県からも通知が発出。市内の居宅支援事業所、包括等に情報を共有。埼玉県からは複数で訪問する経費についての補助、防犯ベルの購入費用について6月の補正予算で追加計上した。埼玉県より通知が届き次第、共有させていただく予定。今後も、国および埼玉県の動きを注視していく予定。
会長	訪問診療、訪問看護については相談窓口が警察にある。
副会長	包括ひがしの体力測定会での口腔機能や聴力に課題がある方が多くいることが把握出来たことは大きな成果。口腔機能や聴力は介護予防の観点から早期に対応が重要。老化現象と捉えられ、そのまま見過ごされてしまっていることが少なくない。その認識を変えて、早期に適切な支援に繋げていけることが大切。 国も測定会などで口腔機能の低下が疑われた方に対して、個別相談や医療機関、歯科医院への受診勧奨に繋げることを推奨している。令和8年度の特別調整交付金の基準では、医療機関へ受診勧奨に関する基準を作り、市町村と医療機関との連絡用紙の整備をするように示されている。体力測定

	の結果から適切な支援、受診に繋げる仕組みづくりが大切。歯科医師会としても、行政、包括と連携してオーラルフレイル予防に関して、啓発や歯科受診に繋がる仕組みづくりに協力していきたいと考えている。
会長	他に意見・質疑はあるか。
委員	(意見・質疑なし)
事務局	(4) 令和7年度認知症地域支援推進員活動実績について 【資料4】を基に事務局より説明。
委員	第13回医療介護フォーラムについて当日参加者は何名か。周知はどのように実施したのか。また参加した方の反応を知りたい。
事務局	コミュニティケアネットワークかわごえと市の共催事業。集計やアンケート集計等はコミュニティケアネットワークかわごえの事務局となっている川越市医師会にて実施。事務局からは当日の参加者は315名と報告を受けている。周知については、コミュニティケアネットワークかわごえには、多くの職種団体が所属しているので、そちらを通じて多くの市民の方に周知するとともに、包括が地域で行う各事業での周知も行った。参加した方の反応だが、アンケートについて実施はしているが、詳細についての報告がまだないので、この後確認したい。
委員	医療介護フォーラムの題名「安心して認知症になれるまちづくり」とあるが、好きで認知症になるわけではない。題名としていかがなものか。
事務局	当日登壇していただいた、慶応義塾大学大学院教授の堀田聡子先生とともに、当日のタイトルは決めた。
委員	認知症の方は、自分が認知症かわからない。私も明日認知症になるかもしれないが、安心してまちづくりが出来るとは思えない。
委員	安心して認知症になれるまちづくりと読むと疑問に思うかもしれない。認知症基本法もできたが、高齢者の方で認知症になる方がとても多い。高齢者が増えていく中で、認知症になる方も増えていく。認知症になってどうしようと落ち込んで生活していくよりも、その時間をいろんな人と繋がって、仲間と一緒にやりたいことを見つけたり、出来るだけ元気で活動できる時間を伸ばしていく取組を行う。認知症はどうしても進行してしまう病気で、不安がある。介護している方も不安があるので、電話相談などの事業で家族も支える取組も行っている。認知症について不安に思っている方

	も多いと思う、相談先を知らない人もいると思う。包括も認知症について取組を行っている。いろいろな意見を出してもらいながら、認知症になっても出来ることのあるのではないかな。そういったことをみんなで考えていける地域社会にしていこうという考え方だと思う。
会長	私は癌が専門。子ども達に癌教育をすることがある。一つは予防したい。誰もが癌になりたくないの、癌予防が必要。しかし癌になる方はいる。癌の予防に失敗したから、癌になったわけではない。癌になっても川越市に住んで良かったねという街づくりが必要。認知症も同様。高齢化に伴って、癌はなくなる。認知症の方も増える。川越市に住んで良かったねと言える街づくりが必要。そして、今回は特に医療介護フォーラムに認知症の当事者の方たちが中心となって発表した。当事者の方の思いに、認知症になってしまったけれど、川越市だったら安心できる。そういった意味が込められていると思う。
委員	認知症ガイドブックの別冊について、今後どこで配布を予定しているのか。民生委員にも配布可能か。
事務局	現状は、地域包括ケア推進課の窓口及び包括にて配布している。希望があれば配ること可能。
委員	市内図書館での周知について、図書館での周知は良い効果があると思う。小さい頃から認知症について理解を促すことは大切。小学校では、車いす体験などの福祉教育を実施している学校は多くあると思う。認知症についても広く周知出来ると良い。
事務局	今年度についても、図書館から声がかかっているの、包括と共催で開催の準備を進めているところである。
会長	他に、意見・質疑あるか。
委員	(意見・質疑なし)
事務局	(5) 令和7年度福祉相談センター相談実績について 【資料5】を基に事務局より説明。
委員	認知症の方や介護をしている方の家族介護支援や、ケアマネジャー等の専門職に対してのフォローアップについてどのように支援しているか。
事務局	個々の支援については、包括やケアマネジャー、サービス事業所等の関係

	機関が連携して支援している。困難事例については、包括等から福祉相談支援センターに相談が来て、複合的な課題に対して一緒に支援している。福祉総合相談窓口として、生活困窮、障害者支援等と連携して実施している。また、重層的支援として一つの事例に関して日頃の連携を踏まえて解決に向けて検討を実施している。
委員	福祉相談センターの職員も疲弊しないようにすることが必要。支援者が孤立、疲弊しないような仕組みが重要。
委員	成年後見制度について、具体的な報告件数等を教えてほしい。所管課が違うのであればどこが所管しているのか知りたい。成年後見制度について法改正がある。今後について何かビジョンはあるか。
事務局	成年後見人制度については、高齢者いきがい課が所管している。また、実際の運用に関しては川越市社会福祉協議会に業務委託しており、後見制度に関する相談等を行っているので、市と社会福協議会にて連携して実施している。法改正されたところなので、今後1年程度かけて作業を行っていく予定。詳しい情報についてまだ把握していないので、今後のネットワーク会議等で把握していきたい。
会長	他に、意見・質疑はあるか。
委員	(意見・質疑なし)
事務局	(6) 令和8年度川越市地域包括支援センター等運営協議会のスケジュールについて 【資料6】を基に事務局より説明。
会長	意見・質疑はあるか
委員	(意見・質疑なし)
委員 会長	7 その他 【チラシ】を基に説明。 【チラシ】を基に説明。
	8 閉 会